広報 大槌

広報おおつち NO.592

鎮魂の祈り 復興への希望
「大槌まつり」華やかに

復興通信
私たちがつくる私たちの新しいまち〜⑦県立大槌病院
産業復興だより　公共交通コラム　おおつち海の勉強室

ひょうたん島日記

10
2014. 10. 6

大槌

広報おおつち NO.592
2014年10月6日

目　次

表紙の写真：大槌まつり＝9月21日、大槌町内の小鎚川（4～7ページ参照）

定点観測（2014年9月23日、城山から）

「弁天さま」が修復終えて帰郷

～被災した蓬莱島の守り神～

大槌町の蓬莱島の神社に安置され、震災で被災した「弁天さま」が修復され、8月31日、町に戻ってきました。高貴な顔立ち、色鮮やかな衣装。震災前の華やかさを取り戻した弁天さまを迎え、地元では式典を開いて喜び合いました。

被災した弁財天＝2013年5月23日

修復された弁財天＝2014年8月31日

弁天さまはＮＨＫの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルとされる蓬莱島の弁天神社に、「海の守り神」として祀られている弁財天です。高さ50センチで、8本の腕に矛や弓、刀などを持つ「8臂像」。津波による流出を奇跡的に免れましたが、傷つき、神奈川県横須賀市の仏師のもとで修復されていました。

弁財天は仏教とともに伝来した女神で、水の神とされています。蓬莱島の弁財天の由緒は定かではなく、地元には、鎌倉時代の頃、大津波により近くの浜に流れ着いた像を漁師が祀ったという言い伝えが残されています。震災前、漁師たちは漁に出るときに弁天神社にお参りし、弁天さまに豊漁と漁の安全を祈願していました。

弁天さまの修復費用は約200万円。民間団体からの支援金や寄付金が充てられました。完成まで約8カ月かかり、修復を手掛けた仏師の梶谷叡正さん（64）は「像には『大正6年修復』と刻まれていました。過去に幾度となく津波に襲われ、その度に修復されてきたのでしょう」と話しています。

弁天さまは、蓬莱島を望む大槌町赤浜の岸壁で開かれた「お迎え式」に臨みました。虎舞や大神楽など郷土芸能団体が演舞し、帰郷を祝いました。

「ひょうたん島復興プロジェクト」代表の岡本大作さん（65）は「全国からの支援に感謝したい。弁天さまは故郷に戻ることができて喜んでいることでしょう」とうれしそうでした。碇川豊町長は式典の祝辞で、『弁天さま』と親しまれてきた弁財天が戻ってきて感慨深い。蓬莱島は町のシンボル。観光のためにも社や鳥居の修復に努力したい」と述べました。

蓬莱島は大槌湾に浮かぶ周囲200メートルほどの小島です。面積は753平方メートル。中央がくびれ、ひょうたんのような形になっています。町は昨年8月に町の文化財に指定し、12月に購入しました。

島は震災で大きなダメージを受けました。弁天さまのほか、灯台、社、鳥居、陸と島を結ぶ防潮堤が津波で破壊されました。灯台や防潮堤は再建され、社、鳥居は被災当時のままです。

これから島全体の復興が本格化し、社が修復されるまでの間、弁天さまは近くの神社に「仮住まい」します。

鎮魂の祈り 復興への希望

大槌町の「大槌まつり」が9月19日から3日間、大槌稲荷神社の宵宮祭、神輿渡御、小鎚神社の宵宮祭、神輿渡御の順番で繰り広げられました。鹿子踊、大神楽、虎舞などの郷土芸能が、勇壮、華麗な舞で祭りを盛り上げました。鎮魂の祈りと復興への希望を託した祭りをドキュメントで追いました。

▼祭りに向けて

◇9月10日

【午後1時】「震災後4回目の祭り。盛り土で通行止めの場所が多いが、祭りを出来るだけで幸せ。復興への力になる」。中須賀大神楽保存会会長で町郷土芸能保存団体連合会事務局長の蛇口久夫さん（66）。

【午後2時】大槌稲荷神社は昨年、神輿を出せなかった。二つの神社の神輿渡御がそろうのは2年ぶり。宮司の十王舘正一さん（82）は「2年続けて神輿を出さないわけにはいかない。犠牲者の霊を弔うためにも今年は出す」。

【午後4時】小鎚神社の神輿は震災後、初めて小鎚川に入る。「川で犠牲になられた方々もおられ、ずっと気になっていた」と小鎚神社宮司の松橋知之さん（45）。

◇9月14日

【午前9時】小鎚神社の神輿を担ぐ社人会が境内で、「観音神輿」「明神神輿」を手入れ。「担ぎ手60人で2基の神輿を出せますが、100人近く集まるでしょう」と社人会会長の三浦順さん（41）。

◇9月17日

【午後7時】祭りを2日後に控えて金澤神楽が大槌第7仮設団地の集会所で稽古。「各団体が稽古場を確保するのに苦労しています」と保存会会長の大久保正人さん（59）。

▼大槌稲荷神社宵宮祭

◇9月19日

【午後6時30分】大槌稲荷神社の宵宮祭。夕闇が迫る境内に郷土芸能の各団体が集う。先頭は松の下大神楽。笛、鉦、太鼓が鳴り響き、「そーりゃ、そーりゃ」の掛け声。9団体が順番に舞い、終了は午後9時。

▼大槌稲荷神社神輿渡御

◇9月20日

【午前8時】快晴。担ぎ手不足が心配されていた神輿渡御がスタート。「声出せ」「声出せ」と叱咤されながら神社の急な石段を下りる。神輿は郷土芸能10団体とともに長い隊列を組みながら、「源水」「大ケ口団地」「復興きらり商店街」「旧安渡小」などの御旅所を経由して魚市場の「お祭り広場」へ。

【午後12時50分】20日は彼岸の入り。旧安渡小から魚市場に向かう道端に生花と線香が供えられている。安渡では震災で、人口の1割を超える218人が犠牲に。

【午後1時】お祭り広場に到着。岸壁の漁船が大漁旗を掲げて祝う。上京鹿子踊から金澤神楽まで6団体が演舞。

【午後3時】お祭り広場を出て、「惣川」「古学校」に向かう。

【午後4時20分】神輿が渡御を終えて神社参道の石段前に着く。急な石段を一気に駆け上がる前に、10分ほど休憩。

【午後4時50分】神輿が難所を越えて神社に戻り、神輿に乗せられていたご神体を本殿に戻す。担ぎ手のメンバーが3本締めで締めくくる。

【午後5時】町役場の多目的会議室で「大槌町応援職員の会」総会が開会。年1回の総会を祭りに合わせて開催。

【午後6時】三陸花ホテルはまぎくで、「おおつちまつりで会いましょう!」の交流会開会。町社会福祉協議会

が主催し、盛岡、花巻、北上市に避難している町民を招待。49人が参加。碇川豊町長があいさつ。「ピンチをチャンスととらえてまちづくりを進めている。故郷に戻ってきてほしい」

▼小鎚神社宵宮祭

【午後6時30分】小鎚神社で宵宮祭始まる。郷土芸能団体が境内の広場と拝殿前に分かれて演舞。観客が二重三重に囲んで見守る。参道前の道路には夜店も出てにぎやか。

【午後9時15分】安渡虎舞を最後に演舞終了。

▼小鎚神社神輿渡御

◇9月21日

【午前8時】この日も快晴。神輿の担ぎ手は約100人。背の高さで2班に分かれる。担ぎ手の背の高さがばらばらでは担ぎづらい。社人会から「4年ぶりに川に入る。足元に気を付けて」「神輿から手を離さないように」「つらくなった交代させるから手を挙げて」と注意。

【午前8時30分】ご神体を本殿から神輿に乗せる。

【午前8時50分】記念撮影後、2基の神輿出発。「役場」「桜木町」「臼澤伝承館」「花輪田」などの御旅所を経由して小鎚川に入り、神社に戻るコース。

【午前10時30分】「おおつちまつりで会いましょう！」に参加した花巻市の小林敏子さん（72）は、町役場で臼澤鹿子踊、中須賀大神楽を鑑賞し、「太鼓、笛の音が心にしみた。故郷が懐かしく涙がこぼれた」。

【午前11時】神輿は桜木町へ。多くの人たちが道端で神輿を迎え、手を合わせたり、清めの塩やお花代を手渡したり。八幡幸子さん（63）は「復興がなかなか進まないが、祭りで元気づけられる。早く、まちが活性化してほしい」。

【午後4時】小鎚川着。両岸と小鎚川を見下ろす橋の上に見物人が鈴なり。向川原虎舞と大槌城山虎舞が舞った後、入水。

【午後4時40分】2基の神輿が川の中を行きつ戻りつし、出水。

【午後4時50分】神社着。2基の神輿が競い合うように境内を走りまわる。

【午後5時35分】ご神体を本殿に移す。長い一日を終え、笑顔で握手を交わす人、こみあげてくる涙をぬぐう人。川に入ったため、担ぎ手の衣装は泥だらけ。社人会は三本締めで締めくくる。

金澤神楽 広く踊り手求めて危機脱す

金澤神楽は大槌町金沢地区に古くから伝わる郷土芸能です。震災前、後継者難で存亡の危機を迎え、踊り手を女性や地区外に広げて窮地を脱しました。大槌まつりでは、人目を引く真っ赤な上衣で、華麗な御神楽（鶏舞）を披露しました。

かつて踊り手は男性が中心で、金沢地区のみで伝承されてきました。20人ほどいた踊り手は震災前、4人にまで減ってしまいました。「神楽を守れ」。男性や地区内にこだわらずに広く踊り手を求め、現在、メンバーは15人にまで増えました。踊り手は全員女性です。

愛好会から保存会に名称を変え、今年4月には町郷土芸能保存団体連合会にも加盟しました。

会長は町方出身の大久保正人さん（59）。「せっかく伝承されてきた神楽を途絶えさせたくなかった」。神楽を指導する太田未彩希さん（27）は祖父から手ほどきを受け、2、3歳の時から舞い始めました。「神楽の演目は12あるが、継承されているのは2演目。もっともっと演目を増やしていきたい」

国立民族学博物館教授 池谷和信さん（55）

「生活に密着し根付く郷土芸能」

「臼澤鹿子踊を中心に大槌町内の郷土芸能を調査しています。鹿子踊のたてがみに使われるドロノキの植樹が今年4月にあり、町内にある鹿子踊5団体が協力し合いました。これは画期的なことで、個々の団体の踊りから、町の踊りになったことを意味します。復興に向けて、地域をつなぎ、世代をつなぎ、町の宝ともいうべき存在になっているのではないでしょうか」

鹿子踊が群舞したドロノキ植樹祭＝4月27日、新山高原

「大槌町の郷土芸能は、鹿子踊に限らず、大神楽も虎舞も、震災前と比べてメンバーが増えている団体が少なくありません。年1回の祭りだけではなく、結婚式や新築祝いなどで舞いを披露する機会が増えています。震災前と比べて、より一層、日常生活に密着し、地域根付いているように感じます」

「郷土芸能は伝統芸能ですが、必ずしも、固定したものでないことが重要です。変わらずに消滅してしまうのではなく、大槌町のように、変化しながら伝承されていく柔軟性が求められるのではないでしょうか」

池谷和信さん

私たちがつくる 私たちの新しいまち ～⑦県立大槌病院～

震災で被災した県立大槌病院の新築工事が今年7月から始まりました。町内の寺野地区に平成28年度の開院をめざします。町民の健康を守る新しい病院は、どのような病院になるのでしょうか。

3階建てで2年後に開院予定

新病院の再建場所は、寺野地区の「ふれあい運動公園」内です。今年7月から新築工事が始まりました。平成27年度に完成、平成28年度の開院をめざしています。

病院は鉄筋コンクリート3階建てで、延床面積は5353㎡、病床数は50床。敷地内には医師公舎（鉄筋コンクリート3階建て）、職員公舎（鉄筋コンクリート4階建て）も建設されます。

診療科は内科、外科を基本とし、震災前の機能をほぼ維持する形でスタートする計画です。内科の医師は4名、そのほか交代で外科、整形外科、皮膚科、眼科の医師が診療を行う予定です。50床の病床は、主に回復期の患者を受け入れます。

現在、県立大槌病院は、他の地方と同じように深刻な医師不足という課題を抱えています。その課題に対処するためには、同じ「釜石保健医療圏」内の中核病院として位置付けられている県立釜石病院との連携がカギを握ることになります。

県立大槌病院で全ての治療をしようというのではなく、急性期医療や専門的な治療が必要な場合は、県立釜石病院を中心に、釜石市内や内陸の病院を紹介します。そのためには、県立釜石病院は、これまでの診療、入院、救急患者受け入れの機能を維持することが前提になります。

平成25年5月、県立釜石病院と、大槌町内の病院、診療所をインターネットで結ぶ「かまいし・おおつち医療情報ネットワーク」（OKはまゆりネット）が本格稼働しました。5病院、17診療所から県立釜石病院の予約ができ、患者さんの診療記録が共有できるようになりました。県立釜石病院と他の病院、診療所とが役割分担しながら、限られた医療資源を有効活用する試みが始まっています。

県立大槌病院の岩田千尋院長はこう語ります。「患者さんの容態をよく看るには、様々な現場を見てきたベテランの医師が必要です。話を聞いてもらいたい患者さんもいる。新しい技術が必要な専門的な治療は大きな病院で若い先生たちに任せたい。新しい病院では、町民が今後病気が悪化しないよう、どのような治療をすればいいか、道筋をつけてあげようと思っています。大槌町内、釜石市内の病院、開業医は互いに連携して助け合い、住民の健康を守ることが大事だと思います」

新・県立大槌病院
建築スケジュールと施設の概要

年度	スケジュール
平成 26・27 年度	建築工事
平成 28 年度	開　　院

施　設	構　造	延床面積
病　院	鉄筋コンクリート３階建て	5,353㎡
医師公舎	鉄筋コンクリート３階建て	1,057㎡
職員公舎	鉄筋コンクリート４階建て	1,258㎡

大ケ口
源水
寺野
町方
旧県立大槌病院
町役場
大槌駅
小枕・伸松
県立大槌病院建設地
凡例
土地区画整理事業区域
防集事業 移転促進区域
防集事業 移転先団地
0 125 250 500 750 1,000 メートル

震災後に仮設診療所で奮闘

県立大槌病院の震災前の診療科は、医師が3名いる内科のほか、診療応援医師による、外科や整形外科、皮膚科、眼科がありました。病床は60床ほどで、入院患者の平均年齢は約80歳。自力で体を動かせない患者が30名、一日の通院患者は160名ほどでした。

震災時には病院の2階まで浸水しましたが、患者は全て3階に入院していたためスタッフ含めて全員、無事でした。患者を家族の元や他の病院に移し始めたのは震災から4日目の3月14日。翌15日には全員を移し終え、そこから病院再建への奮闘が始まりました。

「家族の安否が分からないスタッフがほとんどでした。患者を安全なところへ移動し終えた後、自宅や家族の安否をそれぞれ確認したら一週間後に集まろう、と一度解散したんです。とにかく病院を造らないと、という思いでした」と岩田院長は振り返ります。

その後、被災地へ支援にきていた医師たちが、満足に診療出来る場所がなかったことから、「ちゃんとした診療所が必要で、容態に応じた薬を出すべきだ」と、4月は小鎚神社の下で被災をまぬがれた「上町ふれあいセンター」に診療所を置くことに

診療所が設けられた上町ふれあいセンター

なりました。受付、診察室、処置室、レントゲンを装備し、1日平均90人近くの患者を診察してきました。

平成23年6月には沢山地区に仮設診療所を移転しました。当初は医師が不足し、町内の民間の開業医に交代で手伝ってもらっていた時期もありました。

現在の状況を岩田院長は「患者さんも一人ひとりがいろいろな症状を抱えています。症状がひどい人、一見症状が軽そうに見えても重病の所見がある人、精神的なストレスから話せば落ち着く人……。本当に様々です。ここでは専門的な検査や治療は限られたことしか出来ませんが、患者さんの不安を取り除き、病院を紹介したり、どこの科に行って看てもらえばいいかを伝えたりするのが役割だと思っています」と話していました。

岩田千尋院長

県立大槌病院完成予想図

④「株式会社 ササキプラスチック」
～技術を駆使して試作モデル製作～

平成３（1991）年に吉里吉里で産声をあげた「株式会社ササキプラスチック」は、県内でも知る人ぞ知る「技術で鳴らす企業」の一つです。従業員は12名、平均年齢35歳の若い力が集います。

最も得意とするのは、試作モデルや精密部品の製作です。例えば、大手自動車メーカーが新しい車を開発する時、今までにない新しい部品が必要になります。そんな時、メーカーの「こんな部品が欲しいな」というイメージを、実際に手に取れるモノとして最初に形にします。相手が思い描く「新しい部品」を３ＤＣＡＤ（３次元設計）で作成し、レーザー光によって樹脂を固める光造形システムや、マシニングを駆使して形にしていきます。こうして出来上がった部品の試作モデルをメーカーが実際に組み立て、テストを繰り返し、新しい車が誕生するのです。

手掛けるのは車の試作パーツに限りません。家電や医療機器など、あらゆる分野の試作パーツや精密部品を作ることができます。こうした技術は「どんなものでも作れる企業」として高い評価を受けています。日本のモノづくりの最前線が、この大槌町にもあるのです。

震災時、社長の佐々木さんは宮城県の取引先へ移動中でした。揺れを感じてすぐに自社に連絡を取り、工場や従業員の無事を確認することができました。しかし、その後は一切連絡が取れなくなり、ガソリン不足で大槌町へ戻ることもできず、テレビなどで津波の状況が映るたびに不安が募る長い時間を過ごしました。ようやく大槌町に戻れたのは、震災翌々日の朝のことでした。

幸い工場はギリギリのところで津波の難を逃れることができましたが、地震の揺れで精密機械設備の多くが被害を受けていました。従業員は全員無事でしたが、自宅を流されたり、身内を亡くされたりしました。社長自身も自宅が浸水し、停電が続く工場で家族と身を寄せ合いながら過ごしました。２カ月後の５月に電気が復旧すると、比較的早期に事業を再開することが出来ました。業績も現在は震災直前の水準に概ね回復しています。

「震災を乗り越え、今後も自社技術を生かし新たなチャレンジをしていきたい」と佐々木社長は語ります。実際に、岩手大や岩手県立大との産官学連携も始まりました。ササキプラスチックは、これからも「モノづくりの最前線」を走り続けます。

３次元データを利用し頭部のモデルを造形する作業

〒028-1101 大槌町吉里吉里 30-9-1
TEL 0193-44-2301

Topics
災害時に輸送の円滑化めざす～町とヤマト運輸が協定～

大規模な災害時に支援物資の輸送や物資拠点の運営がスムーズにできるよう、大槌町は８月18日、ヤマト運輸株式会社と協定を結びました。

協定書に署名後、碇川豊町長は「非常時に全国的な配送ネットワークが期待できて心強い。いつ起きるかわからない災害に備えたい」とあいさつし、岩手ベース店の木皿隆弘ベース長は「万が一の場合、物流のノウハウを生かし、必要なところに必要なものを届けたい」と語りました。

震災時、支援物資の輸送が混乱したことから、支援部物資を迅速に、的確に調達、配送することをめざしています。県内で自治体とヤマト運輸が協定を結ぶのは、北上市、陸前高田市、釜石市、久慈市、山田町に次いで６番目です。

協定書に調印した木皿隆弘ベース長（左）と碇川豊町長（右）＝８月18日、町役場

大槌ウインド・オーケストラ　岩間由華さん（26）

音楽でまちを元気にしたい

大槌ウインド・オーケストラ」は２０１３年５月に結成されました。町立大槌中学校、吉里吉里中学校、県立大槌高校の吹奏楽部ＯＢ・ＯＧらによる町民楽団です。岩間さんは、中学、高校で吹奏楽部に所属し、クラリネットを吹いてきました。楽団結成にあたり、友人から声をかけられました。仕事をしながら続けられるかどうか不安でした。しかし、「自分たちの音楽でまちを元気にしたい。自分の出来ることは音楽だ」と思い入団しました。

団員は10名ほど。高校生から20代が主力のメンバーとなっています。週２回、練習し、町内の演奏会やイベントなどで演奏、結成１周年の平成26年８月には、サマーコンサートを開催するまでになりました。

「仕事場と仮設住宅との行き来だった生活が、打ち込めることが出来て張り合いがあります。人に聴かせる以上は、もっとうまくなりたいという気持ちがあります。メンバーの中にはスキルアップのために町外へ指導を受けに行く人も。初心者のメンバーもいて和気あいあいと練習しています」

団長を引き受ける時は仕事と両立出来るかどうか不安でした。しかし後輩が頑張っている姿を見て、やってみようと決断しました。遠方にいるＯＢやＯＧに声をかけたり、様々な人との演奏や合同コンサートも視野に入れたりしながら活動しています。

「いろいろな人との関係が密になったり、自分自身の技術が向上したり、とても充実しています。結婚して子どもが出来ても続けたい。練習に子どもを連れてきてもいい。小さなお子さんのいるお母さんたち、また、町外から来ている方たちも入団大歓迎です！」

しっかりとした面持ちの中にも、大槌に遊ぶ所が欲しい、カラオケボックスでカラオケがしたい、という若者らしい横顔も垣間見せてくれました。

メンバーと練習に打ち込む岩間由華さん（前列中央）

「復興を支える人　支える団体」

大槌復興刺し子プロジェクト

大槌刺し子を地域ブランドに

２０１１年５月、ボランティアによる任意団体「大槌復興刺し子プロジェクト」として活動を始めました。城山公民館の避難所に支援に来ていた吉野和也さんが、避難所の女性たちの手仕事として指導したことがきっかけでした。日本の伝統的な技術である「刺し子」を施した商品を製作し、全国に販売しており、現在は大槌町花輪田に拠点を設けています。商品は大槌の鳥で親しみがあるカモメをモチーフにしたコースター、ふきん、ポロシャツなど。インターネットや町内外の店舗で販売しています。また、オーダーメイドや、企業とのコラボによる作品も製作しています。

横浜から震災後に移住してきたプロジェクトマネージャーの内野恵美さんは「刺し子は従来、家の中で、大切な人のために作ったものと聞いています。刺し子さんたちの技術も向上してきたので、『復興』という文字がなくてもお客さまに選んでいただけるような、付加価値の高い商品を作っていきます」と説明します。

作り手である「刺し子さん」の年齢層も、若いお母さんたちにも広がり、現在60名で品質の高い商品づくりに努めています。活動開始から今年の６月30日までの累計で、５万７千枚、６千５００万円を売り上げました。

「技術指導の先生がいらっしゃると、刺し子さんはみんな喜んで集まってくださいます。また、お客様の『可愛い』とか、『いいもの』という声も励みになっているようです。大槌刺し子があることで、少しでも大槌を明るくできたら、と刺し子さんたちと話をしています。地元の方々にももっと大槌刺し子を知ってもらいたいと思って頑張っています」と内野さんは話してくれました。

〒028-1121
大槌町小鎚第26地割
字花輪田128−4
℡ 0193（55）5368

事務所での商品荷造り作業

Topics　3D映像で復興後の町並み写す～町が保育園で出前講座～

大槌町役場の担当者が復興事業の進み具合を現地に出向いて住民に説明し、意見を聞く「復興出前講座」が８月７日と９月11日、大槌保育園で開かれました。町側が３Ｄ映像で復興後の町並みをスクリーンに写し出し、模型を使って平成28年度開校予定の小・中一貫教育校について説明しました。

お母さんたちは園児をあやしながら聞き入り、「28年度開校が遅れることがないようにしてほしい」「通学路はどうなるのか」「プールは町民にも開放されるのか」などと質問しました。八木澤弓美子園長は「復興協議会に参加できないお母さん方が少なくないので、このような機会は助かります。こんな町にしたい、なってほしいというお母さんたちの意見を伝えることができればいい」と話しました。

出前講座は、今後、様々な場に出向きます。町役場と町民が復興情報を共有する場、町民の意見を汲み上げて復興事業に反映させる場をめざします。

小・中一貫教育校についての説明を聞くお母さんたち＝８月７日、大槌保育園

Topics　ひょうたん島プロジェクトに支援金～キリングループ

キリングループが日本財団の協力を得て大槌町の「ど真ん中・おおつち協同組合」の「ど真ん中・おおつち！ひょうたん島GO・GOプロジェクト」に支援金を寄贈し、７月31日、大槌町役場で贈呈式がありました。

プロジェクトは、サケ、イカ、ウニ、カキなど、大槌の海産物で新商品を開発し、ブランド化をめざします。寄付金は3,600万円。安渡３丁目の大槌漁港内に木造平屋建ての施設も造ります。

碇川豊町長は「大槌では水産加工技術が脈々と受け継がれてきた。ブランド化を期待してやまない」とあいさつし、協同組合の芳賀政和理事長は「三陸の海の幸を届けようと歯を食いしばってやってきた。おいしい水産加工食品を開発し、支援を受けた皆さんに恩返ししたい」と感謝しました。協同組合は芳賀鮮魚店、小豆嶋漁業株式会社、有限会社浦田商店、株式会社ナカショクの４者からなり、全国に約5,000人のサポーターがいます。

芳賀政和ど真ん中・おおつち協同組合理事長を真ん中に贈呈式に臨んだ関係者＝７月31日、町役場

公共交通コラム

「みんなの足はみんなで守る！」

第2回　地域公共交通のあゆみ（明治〜昭和前半）

交通ジャーナリストの鈴木文彦先生とともに、大槌の公共交通はどうあるべきかを考えていくこのコラム。第1回では、「このままでは消えゆく地域公共交通」と題し、廃止や利用者の減少が続く全国が公共交通の現状を紹介いただきました。今回は、鉄道やバスが時代に応じてどのように地方に浸透してきたのかを見ていきたいと思います。

近年は大都市圏を除くと、鉄道やバスを移動に使う割合は10パーセントに満たない状態が続いています。しかし、鉄道やバスは明治期から地域の発展とともに育ってきました。その後の１００年余に及ぶ歴史の中で、マイカーが普及するまでの70年近い期間は、移動のほとんどを公共交通に依存していたのです。今回はまず、鉄道やバスがどのように地域の中で発展してきたのかを概観してみましょう。

地域開発と産業振興を担った鉄道

日本の鉄道事始めが明治5年の新橋〜品川間であったことはよく知られていますが、明治時代は、日本の背骨となる幹線鉄道と、石炭や鉱石、林産資源などを積み出す目的の産業鉄道が発達した時代でした。鉄道網が発達するのはもっと後の時代になります。岩手県沿岸部では、官設釜石鉄道が明治13年に釜石〜大橋間で開通しますが、まさに鉄鉱石を釜石製鉄所に運搬するための産業鉄道でした。

明治25年の鉄道敷設法という法律の中で、盛岡から宮古を経て山田までの鉄道が計画され、大正9年に山田線として盛岡から建設が始められました。その後大正11年には鉄道敷設法が改正されて、いわゆる「三陸縦貫鉄道」が予定線になります。大槌を通る鉄道が計画されたのもこのときでした。山田線は順次路線を延ばし、昭和9年に宮古まで到達しました。そして昭和10年に陸中山田、昭和11年に岩手船越と延び、昭和13年4月に大槌まで延長されました。大槌に悲願の鉄道がやってきたのです。

山田線が釜石まで全通したのは昭和14年9月のこと。このときまだ釜石線がつながっていなかったため、山田線は釜石の鉄を盛岡に運んで東北本線を経由して各地へ輸送する貨物ルートとして、大槌などの沿岸の港町と盛岡を結ぶ旅客ルートとして大活躍することになります。

昭和30年代までの鉄道の姿はSLが客車や貨車を牽く列車

まさに鉄道が地域の経済や産業を支え、地域開発を担った時代でした。釜石線が花巻〜釜石間で全通したのは戦後、昭和25年のことでした。

生活の足として伸びて行ったバス路線

日本で最初にバスが営業されたのは明治36年の京都でした。その後の発達について、バスは大都市から地方へ、鉄道がまず開通したのちバスへ、といったイメージをお持ちではありませんか。実はバスの歴史はむしろ逆で、市電や人力車などが発達していた都市部より馬車ぐらいしかなかった地方のほうが開設が早く、また、鉄道がまだ行き届かない地方の方が先にバス路線が拡大していきました。岩手県で最初のバスが走ったのは大正2年とされていますが、この時点で鉄道は、産業鉄道を除くと今の東北本線しかありませんでした。バスが続々と開業するのは大正後期のこと。沿岸部でも釜石などでバスが走り始めます。そして昭和初期までに小規模なバス会社が多数成立しました。当時のバスはほぼ個人事業だったため、鉄道と違って正確な記録がなかなかないのですが、昭和7〜8年頃には大槌にもバスが走っていたようです。ただ、今の国道45号も当時は貧弱な道路でしたので、バスは本数も限られ、時間もかなりかかったと言われています。

全盛期の東部バスのボンネットバス
（岩手県交通釜石営業所提供）

こうした個人事業のバスは戦時体制に入ると次第に疲弊し、比較的大きな会社に合併されるようになります。バス自体もガソリンがなくなり、薪や木炭でガスを発生させてエンジンを回す「代燃車」に変わります。そして国策によって一定のエリアをひとつのバス会社に統合することが決まり、大槌から釜石、遠野にかけての地域の会社6社が合同して昭和19年に「岩手東部乗合自動車」が成立しました。釜石製鉄所の増産もあって、この会社が戦後の復興期に果たした役割は大変大きなものでした。その後東部バスと名を変え、大船渡などに路線を延ばしますが、昭和32年には岩手県南バスの傘下に入り、バスのデザインも県南バスと同じになります。このころまで人が住んでいる限りバス路線が末端まで入っていく、バスにとっての〝黄金時代〟でした。

鉄道もバスも転機が訪れるのは昭和40年代。その後の推移については次回紹介しましょう。

交通ジャーナリスト　鈴木文彦

第3回

おおつち 海の勉強室

③今日の主役はウナギです

「海の勉強室でウナギかよ！」と言わないでください。大槌湾にもウナギの住む場所があることは知る人ぞ知るところです。でも、それだけじゃないんです。今から5年前、我々はウナギの産卵場が遙（はる）かグアム島近くの太平洋にあることを明らかにしました。水深数千メートルから数百メートルあたりまで立ち上がる西マリアナ海嶺（かいれい）という巨大な海底山脈の周辺です。また、ウナギが月の無い新月の夜にだけ産卵することもわかりました。岩の下からとぼけた顔を覗かせているイメージの強いウナギですが、実は大槌から３０００キロメートル近くも離れた熱帯の海で卵を産んでいたのです。

産卵場でふ化したウナギは、親とは似ても似つかぬレプトセファルスと呼ばれる幼生となって、およそ半年もの間、海流に流されながら日本の沿岸へやってきます。ここでシラスウナギへと姿を変え、我々のよく知る川や沿岸域での生活を始めます。5〜15年ほどかけて十分に成長すると、ウナギは再び産卵場へ旅立ちます。驚くべきは、この時から餌を食べることをやめ、およそ半年後の産卵まで数千キロの海を泳ぎ切るだけでなく、お腹の中で卵を発達させることです。産卵を終えた親ウナギは、サケのホッチャレのように精も根も尽き果てたボロボロの姿になって、熱帯の海にその生涯を閉じるのです。

月の無い真っ暗闇の夜、どこまでも深く青い太平洋の真ん中、巨大な海底山脈を背景に生涯たった一度だけ産卵するなんて、小説家でも思いつかないロマンチックな生き様ではないでしょうか。

ウナギの幼生「レプトセファルス」

能力と自然の不思議さに圧倒

さて、ここまで偉そうに書いてきましたが、ウナギの生態にはまだまだ多くの謎が残されています。例えば、産卵場の方角を正確に知り、数千キロの海を泳ぎ渡り、さらには巨大な海底山脈で、新月の夜という〝約束の時間〟にぴったりパートナーを見つける方法など。我が身に照らせば、最新のＧＰＳだの船だのを頼りに何とか近くまで辿（たど）り着けたところで、最後は携帯電話片手にオロオロする姿しか浮かびません。これまで一度たりとも産卵場へ向かう親ウナギが採集されたことはなく、この謎を解く手がかりは極めて限られています。ウナギの能力と自然の不思議さには、ただただ圧倒されるばかりです。そんな訳で答えられるかどうかわかりませんが、どうなっているんだろうと思われるようなことがありましたら、ぜひ質問コーナーまでお寄せください。全力で対応させて頂きます。

正真正銘の太平洋生まれの天然物

そんなウナギが、今、絶滅の危機に瀕（ひん）しています。環境省はライチョウやアマミノクロウサギ、国際機関はジャイアントパンダやマウンテンゴリラと同じレベルの危機と判断しています。ウナギといえば養殖が思い浮かびますが、実は卵から育てる技術が存在しないため、天然のシラスウナギを捕まえて、養殖池で大きくしているに過ぎません。つまり、私たちが食べているウナギはすべて、正真正銘の「太平洋で生まれた天然物」なのです。

昭和30年代あたりまで、松島湾を中心とする地域は、我が国有数のウナギの漁場でした。また、初めて駅弁にウナギを供したのは、明治40年東北本線の小牛田（こごた）駅だそうです。その一方で、宮城、岩手周辺には古くからウナギと関連の深い雲南神（うんなんしん）の信仰が存在します。今、絶滅に瀕したウナギを救うためには、単なる「食べ物」としてばかりでなく、こうした多様な視点から向き合うことこそが重要だと思います。

東京大学大気海洋研究所・国際沿岸海洋研究センター教授
青山　潤

青山　潤（あおやま　じゅん）
1967年神奈川県生まれ。専門は魚類の生態学。研究の傍らエッセーも執筆。「アフリカにょろり旅」（講談社）で第23回講談社エッセイ賞受賞。他に「うなドン」「にょろり旅・ザ・ファイナル」（いずれも講談社）などがある。

「質問コーナー」

皆さんからの質問をお待ちしています。住所、氏名、連絡先（電話番号など）を明記し〒028-1102大槌町赤浜2-106-1東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターへ。ファクス0193（42）5612でも受け付けます。選ばれれば、次回以降のこのコーナーで質問にお答えします。

総合政策課からのお知らせ

▼(財)自治総合センターのコミュニティー助成事業を募集します

■コミュニティー助成事業とは

（財）自治総合センターが、宝くじの収益金の一部を活用して地域のコミュニティー活動（町内会、自治会などの活動）に助成を行い、地域社会の健全な発展と宝くじの普及広報を行うものです。

■申請方法

（1）募集期限　10月20日（月）まで

（2）実施要綱・申請書　（財）自治総合センターのホームページでダウンロードできます。

（3）申請先　受け付けは町（総合政策課企画調整班）で行い、岩手県を通して（財）自治総合センターに提出されます。

■助成の決定　（財）自治総合センターで審査が行われ、助成の有無が決定します。申請しても採択されない場合がありますのでご注意ください。

助成事業の名称	対象になる団体・条件	助成額
一般コミュニティー助成事業	町内会・自治会などがコミュニティー活動に直接必要な設備の整備をする場合（例：テントなどのイベント用品、椅子、机、コピー機など集会施設の備品、太鼓や法被、提灯などのお祭り用品など）。	100万円から250万円まで（100万円以上で10万円単位）
青少年健全育成助成事業	町内会・自治会などが青少年の健全育成のため、主として親子で参加する事業を実施する場合（スポーツ・レクリエーション活動、文化・学習活動、その他コミュニティー活動のイベントなど）。	30万円から100万円まで（30万円以上で10万円単位）

問 総合政策課 企画調整班
TEL ０１９３（４２）８７２４

生涯学習課からのお知らせ

▼大槌町成人式を開催します

■日時　平成27年1月11日(日)13時から

■会場　城山公園体育館

■対象　平成6年4月2日から平成7年4月1日までに生まれた方で、町内に住所を有する方および町出身者で式典に出席を希望する方

■参加申込方法

①11月1日現在、大槌町内に住所を有している方

11月末日までに、往復はがきで成人式案内を郵送しますので、出席の有無を記入の上、12月5日（金）までに返送してください。

②町外に住所を有する大槌町出身者で、大槌町成人式に出席を希望する方

12月12日（金）までに電話で申し込んでください。

※締め切り以降の申し込みの場合、資料に氏名を掲載できない場合もありますのでご了承ください。

※住所が変更になった方で、郵便局に転送届けを出していない方は転送の手続きをお願いします。

※申し込みをしていない方でも、当日出席することは可能です。

問 生涯学習課 社会教育文化班
TEL ０１９３（４２）２３００
FAX ０１９３（４２）３０３１

▼ふるさと大槌学講座 受講者募集「伊能忠敬が歩いた道」

江戸時代に精度の高い日本地図を作成した伊能忠敬は、１８０１年に岩手県沿岸を訪れました。伊能が記した沿海日記には、前川家の記載があり、前川文書には伊能が訪問した記録があります。伊能忠敬が行った測量はどのようなものであったか紐解きます。

■日時　10月13日(月・祝)　15時〜17時

■会場　中央公民館　大会議室

■講師

○星埜由尚（伊能忠敬研究会特別顧問、〈社〉日本測量協会副会長、元国土地理院長）

○佐々木健（生涯学習課長）

■受講料　無料

■対象　どなたでも

■申し込み　氏名・年齢・電話番号・住所・希望する講座名を生涯学習課にご連絡ください。

本講座は、文部科学省委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」の一つです。また、「いわて教育の日」関連行事です。

問 生涯学習課 社会教育文化班
TEL ０１９３（４２）２３００
FAX ０１９３（４２）３０３１

復興推進課からのお知らせ

▼一定面積以上の土地取引は届出が必要です

一定面積以上の大規模な土地取引をされた場合、国土利用計画法に基づく届出が必要です。

土地売買などの契約を結んだ日から2週間以内に、その土地が所在する市町村の担当窓口へ土地売買等届出書を提出してください。大槌町における届出が必要な面積は次のとおりです。

■都市計画区域内
５０００㎡（約１５００坪）以上

■都市計画区域外
１００００㎡（約３０００坪）以上

問 復興推進課 事業推進班
TEL ０１９３（４２）８７１４
岩手県　環境生活部環境保全課
TEL ０１９（６２９）５２６９

商工観光課からのお知らせ

▼「はかり」定期検査の日程について

9月5日号の広報でお知らせしていました「はかり」の定期検査について、左記の日程で実施します。

■検査日時

①10月15日（水）　13時〜14時

②10月16日（木）　9時〜12時

■検査会場　城山公園体育館1階入口付近

※検査を受けられる方は、いずれかの検査日程で会場にお越しください。

問 商工観光課
TEL ０１９３（４２）８７２５

被災者支援室からのお知らせ

仮設住宅の退去・適正利用について

現在、応急仮設住宅やみなし仮設住宅に入居されている人は次の①〜③のとおり、住宅再建を終了した場合、速やかに新居に転居し、仮設住宅を退去しなければなりません。

住宅再建とは、①災害公営住宅に入居したとき　②新しく住宅を建設・購入したとき　③住宅の補修が完了したとき　④その他住宅を再建したとき（賃貸物件への転居等）となっています。生活の実態を新居に移した後、１ヵ月以内を目安として退去をお願いします。

また、現在岩手県内の各市町村において仮設住宅の不適正利用が問題となっており、大槌町も例外ではありません。仮設住宅は、災害による住宅全壊などにより住家がない被災者に対し、応急的な居住の場として提供するものであり、物置や一時帰省などの家屋としては提供できません。そのように使用している方は、速やかに仮設住宅を退去（返還）いただくようお願いします。

仮設住宅の退去の手続きについて

退去の日が決まってから遅くとも退去の３日前までには、被災者支援室まで退去予定日と時間をお知らせいただくようお願いします。手続の方法や手順は、次のとおりです。

1　引越しが決まり次第、被災者支援室に連絡してください。

・被災者支援室と退去の立会い（部屋の点検と鍵の返却）の日時を調整してください。
・「応急仮設住宅退去届」の記入・提出と、「入居決定通知書」の提示（退去立会の時も可）をお願いします。

2　住居の原状回復（※入居前の状態に戻すこと）をお願いします。

退去時は家財を搬出した後に、住宅の内部、外回りをくまなく清掃してください。次の方が気持ちよく入居できるようにご協力をお願いします。

■清掃していただく場所
①各部屋、風除室、物置、建具、ガラス
②エアコン（フィルター）
③トイレ、浴室、④台所、換気扇
⑤郵便受け（空になっていることを確認）
※破損箇所がある場合には、検査前に必ず自分で修繕してください。
※個人で取りつけたもの（BSアンテナ、増設したアンテナ線、棚など）がある場合には、必ず撤去してください。

■持ち出していただくもの
①家電６点セット（冷蔵庫、洗濯機、炊飯器、電子レンジ、テレビ、電気ポット）
②扇風機、掃除機、ファンヒーター（ご支援品：ダイニチ工業製）
③下駄箱、レンジ台
④日用品（布団、生活雑貨）など

■持ち出してはいけないもの
①岩手県が配備した暖房器具（ファンヒーター〈トヨトミ製〉、電気こたつ〈布団含む〉、ホットカーペットのうち、希望したもの１点）
②畳、カーテン、網戸、風呂のふた、物置
③エアコン、リモコン
④ガスコンロ、給湯設備、浄水器（ろ過カートリッジ含む）
⑤照明器具、電球、⑥消火器
⑦洗濯機の排水口のエルボ、⑧各設備の取扱説明書
※岩手県はエアコンなどの備品の無償譲渡の方針を発表しましたが、本町では未だ仮設住宅の利用希望が多いため、実施していません。実施が決定しましたら別途お知らせします。

3　住所変更、ライフラインなど（電気、ガス、水道、電話、郵便）の手続きをお願いします。

・役場町民課で住所変更の手続きを行ってください。
・新居に住み始めてから１４日以内に住民異動届（転居届、転出届）の提出をお願いします。
・ライフラインなど（電気、ガス、水道、電話、郵便）の手続きが必要です。

みなし仮設住宅（民間賃貸住宅）の退去手続きについて

民間賃貸住宅借上げによる応急仮設住宅（みなし仮設住宅）を退去するときは、県に「民間賃貸住宅の借上げによる応急仮設住宅解約申出書」を提出してください。または、電話で事前に連絡してください。

原則として、退去予定日の40日前までに届け出が必要になりますが、近々に退去される方は、まずは電話で連絡してください。

※「民間賃貸住宅の借上げによる応急仮設住宅解約申出書」は岩手県のホームページからダウンロードできます（岩手県ホームページ　http//.pref.iwate.jp みなし仮設で検索）

問・町内仮設住宅について　被災者支援室　TEL 0193-42-8718
・みなし仮設住宅について　岩手県復興局生活再建課被災者支援担当　TEL 019-629-6917

学務課からのお知らせ

▶大槌町立小・中一貫教育校学園名を募集します

イメージ図

平成 27 年 4 月に大槌中学校区および吉里吉里中学校区に、それぞれ小・中一貫教育校が開校します。

この学校は大槌町の子供たちの健やかな成長を目的とし、義務教育９年間を見通し目指す子供像に向かって、学校、保護者、地域住民が一体となって連携・協働による教育の推進を図るために開校されます。この、学園にふさわしく、皆様に愛され親しまれる学園名を募集します。

皆さまからの多数のご応募をお待ちしています。

■募集内容　平成 27 年 4 月に開校する、大槌中学校区および吉里吉里中学校区２校の学園名

■応募方法　応募要項の裏面にある「応募用紙」に必要事項を記載のうえ、ＦＡＸ、郵送による提出もしくは下記の場所に設置する応募箱に投函してください。

■応募要項・応募箱設置場所

・役場町民ホール・中央公民館ロビー・役場金沢支所・公民館安渡分館
・公民館赤浜分館・公民館吉里吉里分館、公民館浪板分館・町内の小中学校及び大槌高等学校
・大槌町復興まちづくり情報プラザ（シーサイドタウンマスト内２階）

■留意事項

・学園名の○○にあたる名称を記載して下さい。（文字数は問いません）
・漢字、ひらがな、カタカナの別は問いません。（漢字の場合はふりがなを振ってください）
・１人で複数の名称を応募することは可能ですが、同一名称を複数応募されても１点として扱います。
・１人で大槌学区、吉里吉里学区それぞれの名称を応募できます。また、どちらか一方だけでもかまいません。

■募集期間　10 月 10 日（金）から 10 月 31 日（金）　必着

■その他

※応募用紙は、応募箱を設置している場所及び、大槌町ホームページからダウンロードすることができます。
※なお、学園名が決定後にシンボルマークについても募集しますので、よろしくお願いします。

■学園名の決定　大槌町小・中一貫教育校推進委員会で選考して決定します。
※学園名選考について応募数は考慮しますが影響を及ぼすものではありません。

■問い合わせ先、及び送付先

問 学務課 学校教育班　TEL 0193-42-6100（直通）FAX　0193-42-2400 〒 028-1121　岩手県上閉伊郡大槌町小鎚 32-126

商工観光課からのお知らせ

▶「おしごと相談会 in おおつち」の開設期間を延長します

町は、ハローワーク釜石の協力により、お仕事をお探しのみなさんを対象とした就職相談窓口の臨時開設期間を延長します。お仕事や就職活動についての不安や悩み、分からないことなどお気軽にご相談ください。

■開催日時　毎月第２・第４木曜日　13：30 〜 15：30

■相談例

・仕事を紹介してほしい　・釜石、大槌地域の雇用情勢を知りたい
・失業保険や職業訓練などの制度を知りたい　・就職活動の仕方がわからない
・どんな仕事ができるのか相談したいなど

■相談会について

・相談は 13：30 〜 15：30 の間いつでも利用できます。
(相談状況によってお待たせする場合もありますのでご了承ください)
・ある程度時間を要する相談（応募書類や面接練習など）、あらかじめ時間帯を決めて相談したい場合は、事前に電話で予約ができます。
※おおむね 30 分程度の相談時間の予約となります。

■申し込み・予約・お問い合わせ先

問 商工観光課雇用対策班　TEL 0193-42-8725（直通）
受付時間：平日の 8：30 〜 17：15 まで
※本相談会は雇用保険の失業認定における求職活動に該当します。

日程	会場　（町役場３階）	
	ハローワーク	県社会福祉協議会
10 月 9 日	小会議室 4	小会議室 5
10 月 23 日	小会議室 4	小会議室 5
11 月 13 日	小会議室 4	小会議室 5
11 月 27 日	小会議室 4	小会議室 5
12 月 11 日	小会議室 4	小会議室 5
12 月 25 日	小会議室 1	小会議室 3
1 月 8 日	小会議室 2	小会議室 3
1 月 22 日	小会議室 2	小会議室 3
2 月 12 日	小会議室 2	小会議室 3
2 月 26 日	小会議室 2	小会議室 3
3 月 12 日	小会議室 2	小会議室 3
3 月 26 日	小会議室 2	小会議室 3

税務会計課からのお知らせ

平成 26 年度税制改正（軽自動車税・法人町民税）のお知らせ

平成 26 年 3 月 31 日公布された地方税法の一部改正に伴い、軽自動車税などに関する町税条例の一部を改正しました。

▶軽自動車税の税率改正

■原動機付自転車、2 輪の軽自動車、2 輪の小型自動車、小型特殊自動車　平成 27 年度分から次の表のとおりになります。

車　種　区　分		税率（年額）	
		平成 26 年度まで	平成 27 年度以降
原動機付自転車	排気量50cc以下	1,000 円	2,000 円
	50cc超90cc以下	1,200 円	2,000 円
	90cc超	1,600 円	2,400 円
	ミニカー（50cc以下）	2,500 円	3,700 円
2輪の軽自動車（125cc超~250cc以下）		2,400 円	3,600 円
小型特殊自動車	農作業用	1,600 円	2,000 円
	その他（フォークリフト等）	4,700 円	5,900 円
2輪の小型自動車（250cc超）		4,000 円	6,000 円

■４輪以上及び３輪の軽自動車

平成 27 年 4 月 1 日以後に新規登録する車両から新税率が適用されます。平成 27 年 3 月 31 日までに新規登録した車両（初めて車両番号の指定を受けた車両）は、登録後 13 年まで、現行税率のままです。初めて車両番号の指定を受けた月から 13 年を経過した車両（電気軽自動車等を除く）は、平成 28 年度から、次の表の経年重課の税率が適用されます。

軽自動車車種区分	税率（年額）		
	平成27年3月31日までの登録車	平成27年4月1日以降の登録車	登録後13年超（経年重課）
3 輪車	3,100 円	3,900 円	4,600 円
4 輪乗用 営業用	5,500 円	6,900 円	8,200 円
4 輪乗用 自家用	7,200 円	10,800 円	12,900 円
4 輪貨物用営業用	3,000 円	3,800 円	4,500 円
4 輪貨物用 自家用	4,000 円	5,000 円	6,000 円

▶法人町民税の法人税割税率改正

税制改正により、平成 26 年 10 月 1 日以後に開始する事業年度から、法人町民税の法人税割の税率が引き下げられます。

・平成 26 年 9 月 30 日までに開始した事業年度の法人税割　12.3%
・平成 26 年 10 月 1 日以後に開始する事業年度の法人税割　9.7%

※今回の税制改正に伴い、平成 26 年 10 月 1 日以後に開始する最初の事業年度の予定申告額について、法人税割は前年度の法人税割額の 4.7/12（通常は 6/12）とする経過措置が講じられます。

■具体例

(1)3 月末決算法人の場合

Ａ：平成 27 年 3 月期の申告
（平成 26 年 4 月〜平成 27 年 3 月の事業年度）

Ｂ：平成 28 年 3 月期の申告
（平成 27 年 4 月〜平成 28 年 3 月の事業年度）

(2)9 月末決算法人の場合

Ａ：平成 26 年 9 月期の申告
（平成 25 年 10 月〜平成 26 年 9 月の事業年度）

Ｂ：平成 27 年 9 月期の申告
（平成 26 年 10 月〜平成 27 年 9 月の事業年度）

Ｃ：平成 28 年 9 月期の申告
（平成 27 年 10 月〜平成 28 年 9 月の事業年度）

問 税務会計課 課税班　TEL 0193-42-871

おらほの町の地域包括支援センター

ここでは、高齢者に関わる様々な話題を掲載しています。

ご存知ですか？
大槌ぴんころ体操

大槌町地域包括支援センターでは、高齢者が身近な場所で簡単な運動を行い、健康で活き活きとした生活を送ることができるよう、大槌町独自の介護予防体操「大槌ぴんころ体操」を作成しました。様々な介護予防教室で実施し、ご好評をいただいております。各教室での様子をご紹介します。

お元気教室

介護予防イベント

さわやかウォーキングの会

チャレンジデー（ふれあい交流会）

楽らく体操・なんでも相談会

10月に入り、運動しやすい季節となりました。10月13日は体育の日です。スポーツの秋に合わせて、体を動かしてみませんか？ご自宅でも出来る体操をご紹介しますので、ぜひ試してみてください。また、大槌ぴんころ体操DVDの貸出も行っていますので、ぜひご活用ください。

自宅で出来る体操の紹介

―― 膝の関節をサポートする太ももの筋肉を鍛える体操です。歩行時にかかる膝への負担を減らします ――

1．タオルの押しつぶし（10回1セットを2セット）

①床に座って膝を伸ばし、膝の下に丸めたタオルを入れる。
②膝の裏でタオルをつぶすように床に押しつけて10数える。

2．4分の1スクワット（2、3セット程度）

①両脚を肩幅より少し広めに開いて立つ。
②上体をまっすぐにしたまま、4秒で膝を4分の1程度曲げて腰を落とす。
③4秒で膝を伸ばして、元の姿勢に戻る。

【注意点】・膝や腰に痛みや病気がある方は、主治医に相談してから始めましょう。
・体操をした後に、痛みが強くなった場合には体操を中止し、医師に相談してください。

問 大槌町地域包括支援センター　TEL 0193-42-8716

平成26年度65歳到達者健康教室のご案内

長寿課では、65歳に到達した人に介護保険証を交付することと併せて、介護保険制度や介護予防に関する説明会「65歳到達者健康教室」を開催しています。

■対象者
①大槌町に住所を有する人で65歳を迎える人（対象者には個別にご案内を送付します）
②今年度4月～9月の65歳到達者健康教室欠席者の中で、介護保険制度や介護予防に関心をお持ちの方
③介護保険制度や介護予防に関心をお持ちの人（年齢に関わらずご参加いただけます）

■会場および日程※日程が変更となる場合があります。対象者②に該当する人は事前にご確認ください。

対象者	開催日	会場
昭和24年10月2日~11月1日生	10月22日（水）	役場3階 小会議室4・5
昭和24年11月2日~12月1日生	11月17日（月）	役場3階 小会議室4・5
昭和24年12月2日~昭和25年1月1日生	12月15日（月）	役場3階 小会議室4・5

■時間　13：30～14：30
■持ち物　介護予防チェックリスト・高齢者台帳（対象者①の方のみ）
■申込み　不要
■内容　・65歳に到達した人に介護保険証の交付・介護保険制度・サービス利用についての説明
・介護予防についての説明・大槌ぴんころ体操

問 長寿課 地域包括支援班　TEL 0193-42-8716

保健だより

健診・相談・予防接種

健診・相談を下記のとおり実施します。会場は大槌町仮設保健センター（寺野）です。また、予防接種を受ける際には、**予診票と母子健康手帳**を忘れずにお持ちください。

【12か月児相談】
■実施日　10月22日（水）
■対象者　平成25年9月生まれ、平成25年10月生まれ
■受付時間　9：30～10：00　（平成25年9月生まれ）
13：30～14：00　（平成25年10月生まれ）

【3歳児健康診査】
■実施日　10月17日（金）
■対象者　平成23年4月生まれ、平成23年5月生まれ
■受付時間　12：00～12：30

【四種混合（ジフテリア・百日ぜき・破傷風・ポリオ）予防接種】
■接種日　10月24日（金）
■対象者　平成19年5月生まれ～平成26年7月24日以前生まれ（生後3ヵ月～生後90ヵ月）
※三種混合とポリオの予防接種を一度も接種していない人
■受付時間　13：00～13：20

問 保健福祉課 健康推進班　TEL 0193-42-8715

水痘（水ぼうそう）予防接種のお知らせ

これまで、任意予防接種だった水痘（水ぼうそう）が平成26年10月1日から定期予防接種となりました。水痘（水ぼうそう）の予防接種回数は2回です。対象年齢は、1歳～3歳未満のお子さんが対象となります。

ただし、平成26年度のみ対象年齢が異なり、1歳～5歳までのお子さんとなります。対象者には、個別に通知します。

なお、分からないことがありましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

【水痘（水ぼうそう）予防接種】
■実施日　平成26年10月28日（火）
■受付時間　13：00～13：20
■対象者　対象者には個別に通知します。
■持ち物　予診票　母子健康手帳
予防接種の会場は、大槌町仮設保健センター（寺野）です。

■対象とならない方
・水痘（水ぼうそう）にかかったことがあるお子さん
・すでに2回、ワクチン接種が完了しているお子さん
・3歳～5歳までに1回ワクチン接種をしているお子さん

問 保健福祉課 健康推進班　TEL 0193-42-8715

平成26年度高齢者インフルエンザ予防接種について

下記のとおり、インフルエンザ予防接種の接種費用の助成を行いますので、期間内に接種しましょう。

■助成対象者
1．町内に住所を有する接種日時点で65歳以上の方
2．町内に住所を有する接種日時点で満60歳以上65歳未満の方で心臓、じん臓、呼吸器の機能、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害（身体障がい者手帳1級程度）を有する方

■助成期間　10月15日（水）から12月15日（月）
■接種回数　1回
■接種料金　大槌町および釜石市の実施医療機関で接種した場合は2,000円（生活保護世帯の方は無料になります。）
■接種の申込み
1．事前に、必ず医療機関に予約をしてから接種してください。
2．町内の医療機関には予診票がおいてあります。町外で、接種を希望される方は、事前に役場保健福祉課健康推進班までお問い合わせください。

インフルエンザウイルスに感染すると、38度以上の熱が出たり、悪寒、関節痛などの症状が出ます。特に高齢者や持病がある方が重症化する場合があるので予防が必要です。

予防接種を受けることで、インフルエンザにかかりにくくなったり、重症化するのを防ぐことはできますが、完全に感染を防止できるわけではありませんので、手洗い・うがい、十分な休養とバランスのとれた食事をこころがけましょう。

問 保健福祉課 健康推進班　TEL 0193-42-8715

すくすく赤ちゃん

このコーナーでは、町内の１歳前後の赤ちゃんを紹介しています。
今月は平成 25 年８月生まれの赤ちゃんです。

角地 結人（かくち ゆうと）くん
平成 25 年８月９日生
いつも「ニコニコ」元気いっぱいです。
（家族代表者名：角地　和孝）

昆 桜空（こん おうすけ）くん
平成 25 年８月９日生
大きくなぁれ！！
（家族代表者名：昆　祥一）

三浦 寧心（みうら ねね）ちゃん
平成 25 年８月 25 日生
兄ちゃん＆姉ちゃんに負けない活発な寧心ちゃんです。
（家族代表者名：三浦　公洋）

阿部 春（あべ はる）ちゃん
平成 25 年８月 28 日生
一日中食べてます。
（家族代表者名：阿部　守）

PHOTO まちかど

「サケが今年も母なる大槌川に戻ってきました。河口付近で撮影しました。サケは３年から５年で回帰しますが、震災の時に放流できずに流されたサケが今年、戻ってきてくれるかどうか心配です」　【９月 13 日、三浦寧史さん撮影】

「大槌高校近くの道路を渡ろうとしているニホンジカを撮影しました。親子でしょうか、３頭が一緒に行動していました。町の中心部ともいえる場所でシカと遭遇する。大槌ならではですね」　【９月９日、伊藤陽子さん撮影】

町長随想

⑰海洋調査のシリコンバレーに

独立行政法人海洋研究開発機構所有の世界最新鋭の海洋調査船「新青丸」が、９月13日母港となった大槌港に入港、初着岸し、町民の歓迎を受けた。

新青丸は、昨年２月15日、山口県下関市の造船所で、海洋調査船「淡青丸」の後継船として約110億円の巨費を投じて建造された。進水式では、当時、赤浜小学校６年の黒澤宏太くんと安渡小学校５年の河合夏海さんの２人が、手にした銀の斧（おの）によって、船と陸をつなぐ支え綱を切った。新青丸の船首から下げられたシャンパンとくす玉が割れ、色とりどりの紙テープが垂れ下がり、風船が空へと舞い上がる中、ゆっくり滑るように巌流島を背に海原へと進水した。その後の進水祝賀会の来賓祝辞で、「大槌町は新青丸によって、国際的な海洋調査の拠点となる」との励ましを受けた。

第２次安倍改造内閣が重要課題として人口減少や地方の衰退への対策として首相を本部長とする「まち・ひと・しごと創生本部」を創設し、秋の臨時国会に地域支援のための関連法案を提出する。

現在、赤浜の東京大学大気海洋研究所に、年間延べ４千人の研究者や学生さんが訪れているといわれている。東北の小さな町、大槌町は、新青丸により、世界に誇れる海洋調査研究の拠点として、ＩＣＴ（情報通信技術）のシリコンバレーのような存在を目指したい。ひと、もの、かね、情報が拡大する新しい賑（にぎ）わいのある町として創生するよう国の後押しを期待したい。

新青丸の操舵室（そうだしつ）の窓越しから見えた「ひょっこりひょうたん島」の灯台が、きらりと赤く輝き、初入港を祝福していた。

碇川　豊

ひょうたん島日記

「新青丸」の大槌港初着岸祝う
～最新鋭の学術研究船～

独立行政法人海洋研究開発機構の「新青丸（しんせいまる）」が母港の大槌港に初めて着岸し、９月 14 日、大槌港魚市場岸壁で入港・着岸式がありました。

新青丸は、老朽化に伴って退役した淡青丸の後継船として山口県下関市の造船所で建造されました。科学技術の粋を凝らした最新鋭の船で、震災後の三陸沿岸の海洋環境を研究する文部科学省の東北マリンサイエンス拠点形成事業を推進する役割を担います。

全長 66 メートル、幅 13 メートル、1,629 トン。航海速力 13.2 ノットで、建造費は約 110 億円。一カ所にとどまったまま 360 度回転できる推進器や自動定点保持装置が備わっています。また、音波を使って海底の地形を測定することができ、水深約１万メートルまでの海水を水深ごとに採取できる採水器があります。さらに、海底の様子を撮影したり、地質を調査したりする無人探査機を搭載できます。

入港・着岸式で碇川豊町長は「復興の星とも言うべきこの船の母港・大槌が、世界の海洋研究の拠点になるよう期待したい」とあいさつし、平朝彦・独立行政法人海洋研究開発機構理事長は「世界最新鋭の性能を持つこの船が、復興のシンボルとして町民に愛される存在になってほしい」と期待を込めました。

記録で残す犠牲者の「生きた証」
～山折氏を迎えシンポジウム～

震災で犠牲になった町民の記録を残す大槌町生きた証プロジェクトのシンポジウム「鎮魂の対話」が９月６日、大槌町の中央公民館で開かれました。花巻市出身で京都市在住の哲学者で宗教学者の山折哲雄・国際日本文化研究センター名誉教授が講演し、「東京一極集中の陰で東北は見捨てられ、置き去りにされようとしている。死者の魂を感じ、信ずることなくして真の復興はあり得ない」と語りかけました。

山折氏は、「死者思わずして復興なし」という標題で講演しました。生きた証プロジェクトの意義について、「人間はつらい体験を忘れようとする。同時に忘れてはいけないという声が聞こえる。そのジレンマに生きた証はかかわっているのかもしれない。人間の記憶、共同体の記録を何が何でも後世に伝えていかなければならない」と話しました。

シンポジウムでは、山折氏の講演の後、関係者によるパネルディスカッションがあり、プロジェクトについて論じ合いました。パネラーで生きた証プロジェクト実行委員長の高橋英悟・吉祥寺住職は「先に還った人たちの分まで残された私たちがしっかり生きる。そんな力を与えてくれるようなプロジェクトにしていきたい」と述べました。

教育委員会だより

城山の風

発行：大槌町教育委員会　第 80 号　26. 10. 6
岩手県上閉伊郡大槌町小鎚 32 金崎 126　TEL 42-6100

教育行政基本理念
町づくりは
　人づくりにあり
人づくりは
　教育にあり

私の主張釜石大槌地区大会最優秀賞

「ふるさと」

吉里吉里中学校 3 年
竹澤真由さん

「また､無視かよ･･」忘れもしない四月十七日木曜日、修学旅行一日目。東京、銀座。私たちは岩手県のアンテナショップでワカメを売っていた。

「三陸わかめはいかがですか」「おいしい吉里吉里のわかめですよ」「いらっしゃいませ。いかがですかー。」目の前には一袋三百グラム入りのわかめが山のように積まれている。「これ・・・本当に売れるのかなぁ・・・。大丈夫かなぁ。」

私たちの心は不安でいっぱい。なぜなら売り始めてもう一時間経っているのに、四百個持ってきたわかめは半分も売れていない。先生が叫ぶ。「もっと声を上げてお客さんを呼ばないと！ほら、真由、笑顔が足りない！」

迫力ある、かっこいい虎舞を披露して人を集めたのは良かったけど、売れゆきがよくない。百人近いお客さんがみんな笑顔で、大喝采だったのにぃ、おひねりまで飛んできたのにぃ・・何人か買ってくれたけど・・あとは三々五々散っていった。

外では呼び込みをしている。

「いかがですかー。三陸産のわかめですよー。」「この春とれた早採りわかめです」クラスの仲間が声を上げている。でも売れない。

「疲れたねー、先生たち、ソフトクリームおごってくれないかなぁ」とそんな話まで飛び出す始末。だって知らない土地で、しかもここは日本の政治と文化の中心東京。見たこともないようなたくさんの人達を前にわかめを売るなんて、とても照れくさいし、なんだかためらってしまう。せっかく声をかけても試食もしないで、無視して通りすぎていく。

「いやだなぁ。どうすんの、これ」と思いながらつったっていると、「あの・・。」と五十代くらいの女の人が声をかけてきた。「一つおいくら？」「あ、五百円です。」隣の友達が驚いたように答える。「どこから来たの？」「岩手県です。」次は私が答えた。「あら、岩手のどこ？」「大槌町の吉里吉里です。」しつこいなぁと思いながらまた私が答える。するとその人は「震災大変だったでしょう・・。私もとても悲しみました。主人といつも何かできないかって言ってるのよ。」

私は何と答えていいのか分からなかった。また聞かれた。「あなたのふるさとの吉里吉里ってどんなところですか。」

答えようと思っても言葉が出てこなかった。そして私の心に、ひっそりとした海岸が浮かんできた。何もない、がらんとしてしまった町並み、仮設住宅、三年前のたくさんの涙、涙、涙。それでも歯を食いしばって日々の暮らしを生きる人達。頑張る仲間の笑顔。青空に響く祭囃子。わかめ棚をせっせと作るおじいさんたちの後姿。あとからあとから浮かんでくる。まるで私を諭すように。大事な大事なふるさとを忘れるなと。

自分を叱った。「何だ。この程度のことで。東京に負けるな。弱い自分に負けるな。私たちはふるさとを背負ってここに立っているんだ。しっかり売れ！！」

その人は三つ買ってくれた。帰りぎわに言った。「吉里吉里ですね。忘れませんよ。」「はい。忘れないで下さい。吉里吉里です。」私も堂々とこたえた。そして大きな声で叫ぶ。「いかがですかー。吉里吉里でとれたおいしいわかめです。」

友達が興奮して飛び込んでくる。「外で十個ほしいっていうお客さんがいるよ。真由、早く袋に入れて。一万円預かってきたからおつりも準備してね。」汗をかいて、でも、とてもうれしそう。

「あなたのふるさとはどんなところですか」次に聞かれたらこう答えよう。それは、きずついて悲しい。しかし、私とひとつです。いつでもどこまでも。

練習の成果を発揮し多数の入賞

地区中学新人戦・小学校陸上記録会

【中学校新人戦】

○剣道
男子団体　2 位　大槌中学校
男子個人　2 位　兼澤　亮（大槌中）＊
女子個人　3 位　佐々木佳陽（大槌中）＊

○柔道
男子個人 66kg級　2 位　山影亮太（大槌中）＊

○卓球
男子団体　4 位　吉里吉里中学校
女子団体　2 位　大槌中学校
　　　　　3 位　吉里吉里中学校

○軟式野球　2 位　吉里吉里中学校
　　　　　　3 位　大槌中学校

○ソフトテニス
男子団体　2 位　大槌中学校
女子団体　4 位　大槌中学校

○バスケットボール
男子　2 位　大槌中学校　＊
女子　1 位　大槌中学校　＊

○バドミントン
男子個人　3 位　黒沢真那斗（大槌中）

○サッカー　2 位　大槌中学校　＊

○バレーボール
女子　4 位　吉里吉里中学校

○相撲
県大会出場　6 位　藤原康洋（大槌中）

＊印　県大会出場

【小学校記録会】

《共通男子》
○ 1000 m　5 位　金崎大空（大槌小）
　　　　　6 位　岩間駿介（大槌小）
○ 80 m ハードル　3 位　阿部雄一（大槌小）
　　　　　7 位　臼沢竜弥（大槌小）
　　　　　8 位　加賀優也（吉里小）
○走高跳　3 位　千葉日翔（大槌小）
　　　　　7 位　倉本　岳（大槌小）
○ソフトボール投　2 位　佐藤　魁（大槌小）
　　　　　6 位　神田祥宜（大槌小）

《5 年男子》
○ 100 m　2 位　金澤我羽（大槌小）
　　　　　3 位　阿部晃己（大槌小）
　　　　　6 位　堀合駿輔（吉里小）

☆残りの種目の結果は次号で紹介します。

福祉のしごと地域就職フェア in 釜石

福祉関係への就職を希望する方や、関心のある方を対象に、面接対策講座や、参加施設、事業者との個別面談を行います。申し込み不要、参加は無料です。

■日時　10 月 24 日（金）12：30 ～（受付）
■会場　釜石・大槌地域産業育成センター
問 岩手県福祉人材センター（三浦・白濱）　℡ 019-601-7061

行政相談について

身のまわりで起きた人権問題について、人権擁護委員が相談に応じます。

■日時　10月17日（金）10:00～12:00
■会場　大槌町役場 1 階　相談室 2
問 総務課総務班　℡ 0193-42-8710

大槌町地域子育て支援センター「かりん」からのお知らせ

大槌町地域子育て支援センター「かりん」では、子育て親子の交流の場の提供や、子育て家庭への育児支援を行っています。10 月の行事は下記のとおりです。お気軽にご参加ください。

「げんきっこくらぶ」
■日時　10 月 2 日（木）10:00 ～ 11:30
■対象　未就園児とその保護者（祖父母の方も可）
■内容　親子あそびして楽しみます。

「大槌保育園運動会」
■日時　10 月 4 日（土）
■対象　未就園児とその保護者
■内容　大槌保育園の運動会に参加できます。
※予約制になります。

「ひよこくらぶ」
■日時　10 月 9 日（木）10:00 ～ 11:30
■対象　０～２歳半くらいまでのお子さんとその保護者（祖父母の方も可）
■内容　役場の保健師さん・栄養士さんとお子さんの身体測定、発育の相談、子育て。相談、離乳食・幼児食・授乳・ミルクの相談など相談できます。

「たにぞう&ひろみちお兄さん in 大槌！みんな集合！ファミリーライブ」
■日時　10 月 12 日（日）10:00 ～（受付）　10:30 ～（開演）
■会場　中央公民館大会議室
※詳細については下記問い合わせ先にご連絡ください。

「ひだまり広場」
■日時　10 月 16 日（木）10:00 ～ 11：30
■対象　未就園児とその保護者
■内容　園庭も解放します。お外で思いっきり体を動かしましょう。雨天の場合は、お部屋でお話会になります。

「臨床心理士相談」「かりんカフェ」
■日時　10 月 27 日（月）10:00 ～ 12:00 13:00 ～ 15:00
■対象　未就園児とその保護者（祖父母の方も可）
■内容　かりんカフェでは、温かい飲み物とお菓子を用意しています。毎日忙しいママさんのための「かりんカフェ」で一息つきましょう。臨床心理士の土屋先生による育児や心の悩み、家庭の悩みなど一人で抱え込まないで、是非相談にいらしてください。

◆のびのび広場◆
■日時　月曜日～金曜日（祝日除く）9:30～12:00 13:00～16:00
■対象　未就学児とその保護者（祖父母も可）
■内容　みんなが自由に集える場。子育ては一人じゃない。みんなで育てる共有の場。

そんなやさしい空間が「かりん」です。いつでもあそびに来てください。※ 10 月 23 日（木）午前中はお休みです。

問 大槌町地域子育て支援センター「かりん」　℡ 0193-42-2570

大槌町カレンダー　10 月 6 日（月）～ 11 月 4 日（火）

日付	大槌町内イベント	大槌病院外来
6（月）		午前：内科、整形外科、眼科　午後：内科
7（火）		午前：内科、外科、皮膚科 午後：内科、皮膚科
8（水）		午前：内科、皮膚科　午後：内科
9（木）	心配ごと相談 元気活きいき運動教室	午前：内科、外科　午後：内科
10（金）		午前：内科　午後：内科
11（土）		完全休診（急患受付なし）
12（日）		完全休診（急患受付なし）
13（月）	ふるさと大槌学講座	完全休診（急患受付なし）
14（火）		午前：内科、外科、皮膚科 午後：内科、皮膚科
15（水）		午前：内科、整形外科、皮膚科 午後：内科
16（木）	さわやかストレッチ教室	午前：内科、外科　午後：内科
17（金）	行政相談、人権相談 三歳児健康診査	午前：内科　午後：内科
18（土）		完全休診（急患受付なし）
19（日）	行政相談、人権相談	完全休診（急患受付なし）
20（月）	被災者支援出張行政相	午前：内科、整形外科、眼科　午後：内科
21（火）		午前：内科、外科、皮膚科 午後：内科、皮膚科
22（水）	12 ヵ月児相談 65 歳到達健康教室	午前：内科、皮膚科　午後：内科
23（木）	元気活きいき運動教室	午前：内科、外科　午後：内科
24（金）	福祉のしごと地域就職フェア 四種混合予防接種	午前：内科　午後：内科
25（土）		完全休診（急患受付なし）
26（日）		完全休診（急患受付なし）
27（月）		午前：内科、眼科　午後：内科、整形外科
28（火）	水痘予防接種	午前：内科、外科、皮膚科 午後：内科、皮膚科
29（水）		午前：内科、整形外科、皮膚科 午後：内科
30（木）		午前：内科、外科　午後：内科
31（金）		午前：内科　午後：内科
11月		
1（土）		完全休診（急患受付なし）
2（日）	大槌町民大運動会	完全休診（急患受付なし）
3（月）		
4（火）		

※大槌病院外来日程は都合により変更となる場合があります。
※心配ごと相談は、大槌町社会福祉協議会で実施しています。相談内容についてはお問い合わせください。
問 大槌町社会福祉協議会　℡ 0193-41-1511

10月20日（月）、26日（日）は、「行政相談週間」です！～行政困りごとありませんか～

総務省では、行政相談制度のより一層の利用を促進するため、この 1 週間を「行政相談週間」と定め、全国一斉に各種行事を実施します。行政相談は、役所（国、県、市町村）や独立行政法人・特殊法人などの仕事に関して、困っていることや要望したいことについて相談に応じ、その解決の促進を図るものです。

行政相談委員は、この週間にちなみ、次のとおり行政相談所を開設しますので、お気軽にご利用ください。相談は無料で秘密は厳守されます。なお、東日本大震災に係る相談も受け付けます。

〇今月の行政相談所の開催日時、場所は
①10月17日（金）10:00～12:00 大槌町役場　②10月20日（月）10:00～12:00　金沢支所
〇大槌町担当の行政相談は、若生晃委員が行います。

住宅再建相談会を開催します

岩手県居住支援協議会では、関係機関などと連携し、被災者向けの住宅再建相談会を開催します。この相談会は、被災者に住宅再建に関する公的支援や融資、地域型復興住宅などの情報提供を行うとともに住宅再建の専門家が個別の相談に応じます。

■日時・場所　10 月 19 日（日）
①【午前の部】10:00 ～12:30 まで【会場】役場仮庁舎（旧大槌小学校）3 階大会議室
②【午後の部】14:00 ～16:00 まで【会場】小鎚仮設団地集会所（まごころ仮設団地）
■内容
・説明会　住宅の自立再建に対する公的支援制度、住宅融資などについて説明します。
・相談会　公的支援制度、住宅融資、住宅再建関係について個別に相談対応します。
※①②ともに事前申込および参加料不要です。直接会場にお越し下さい。
問 岩手県県土整備部建築住宅課 ℡ 019-629-5933 復興推進課 建築住宅班℡ 0193-42-8714

町内各地の放射線量についてお知らせします

町内の放射線量測定結果についてお知らせします。9 月 17 日（水）に測定した結果は下の表のとおりです。なお、国の除染基準は 0.23 毎時マイクロシーベルトです。
問 町民課　町民生活班　℡ 0193-42-8713

測定地点	放射線量	測定地点	放射線量
小鎚小学校仮設団地	0.051	大槌第 5 仮設団地（和野橋下流）	0.058
小鎚仮設団地（佐野屋球場）	0.058	金沢小グランド	0.051
大槌町役場	0.062	桜木町中央公園	0.066
安渡第 2 仮設住宅（旧小学校）	0.060	源水（屋敷前）	0.064
赤浜小学校グラウンド	0.058	大ケ口公園	0.064
吉里吉里中学校仮設団地	0.071	沢山地区（高森団地）	0.066
吉里吉里第 5 仮設団地（駅公園）	0.068	沢山地区（郵便局脇）	0.071
吉里吉里第 2 仮設団地（浪板）	0.071	花輪田定住促進住宅裏	0.060
大槌第 7 仮設団地（大柾橋下流）	0.062	測定地点平均値	0.061

コミュニティー助成事業で防災備品を配備しました

一般財団法人自治総合センターの「平成 26 年度コミュニティー助成事業」に大槌町公民館吉里吉里分館運営委員会が事業申請を行い、吉里吉里公民館に防災倉庫及びテントや発電機等の備品を配備しました。コミュニティー助成事業は、宝くじの受託事業収入を財源とし、コミュニティーの健全な発展を図るとともに宝くじの普及広報事業を目的としています。

おめでた・おくやみ（敬称略）

8 月 15 日～ 9 月 15 日分

【出生】
佐藤　蒼勇（康　博・前　　段）
佐野　陽昇（悟　寛・大 ケ 口）
長峰　亜美（　稔　・大ケ口一）
倉本　和（　忍　・吉里吉里二）
川口　海翔（泰　宏・浪　　板）
堀合　悠月（俊　光・吉里吉里二）
足立　蓬士朗（孝　夫・桜 木 町）
山﨑　悠人（健　志・桜 木 町）

【婚姻】
松村　大和（吉里吉里三）
山口　梢（釜 石 市）

【死亡】
佐々木　巖（91・大　　町）6/28
黒澤　ユリ（94・赤 浜 二）8/16
道又　夫至子（93・沢　　山）8/18
小林　一郎（89・蕨 打 直）8/26
兼澤　繁子（77・元　　村）9/1
大和田　勝利（69・大ケ口一）9/7
佐々木　庄作（86・大ケ口一）9/11
藤原　チヨ子（83・種　　戸）9/12
黒田　佐保香（51・沢　　山）9/12

復興祈願！大槌町民大運動会

町民に健康とふれあいと息抜きの場を与えることなどを目的に、「復興祈願！大槌町民大運動会」を開催します。

リレーや借り物競走などの運動会の定番競技のほか、性別年代関係なく参加できる競技も行います。

町民の方、町にゆかりのある方、ボランティアで訪れた方、近隣市町村皆さまなど広く参加を募集します。皆さまの参加をお待ちしています。

■日時　11月2日（日）9:00～11:40
※運動会終了後にフェスタ（炊き出し、催しもの）を開催します。
■会場　大槌小中学校仮設校舎校庭（寺野）
※詳細や申込方法などについては今号に折り込んでいるチラシをご覧ください。
問 大槌町民大運動会実行委員会
℡ 080-1809-7768（川端）
℡ 090-3868-6507（清水）
℡ 080-6038-9579（渡辺）
FAX0193-55-6993
Email　igako1928@gmail.com

広報
大槌
No.592
広報おおつち10月6日号

大槌学のすゝめ

⑰出会いと引き寄せ　その1
〜あの伊能忠敬が前川家に〜

その「事件」は、安政7（1860）年に。いや、その「變」は、でしょうか。

地下鉄、東京メトロ。有楽町線の桜田門駅。階段を上ると、皇居のお堀や警視庁、引きも切らない皇居周回のランナーたち。すると、あっ、、

目映い閃光！タイムスリップ！・・・・

雪が静かに降る。そして次の瞬間、忽ち阿鼻叫喚。

「櫻田門外の變」と、正字では書くようです。安政7年3月3日（西暦では3月24日）。大老、井伊直弼が暗殺された事件。

今ではかなり一般的に使われるようになったことば、「一期一会」。これは、井伊直弼が著書「茶湯一会集」の巻頭に。実は、その思想が、後年、世間に拡散したもの。

一期（一生）に一度だけの機会を大切にしよう、と一般的に解釈されています。

千利休の弟子宗二、「山上宗二記」に「一期に一度の会」とあることによる、とも。

さて、一生に一度だけの機会。その瞬間に、そうだと思えること、あるでしょう。けれど、大概は、当たり前に過ぎて、振り返ると、「あっ」てな感じのことも。

享和元（1801）年9月26日（西暦では11月2日）、伊能忠敬は、蝦夷地測量のために、岩手県沿岸を北上します。菊坂、現在の古廟坂を下り、小鎚川を渡り、城内から四日町に入ります。「八つ頃」、というと、その当時の時間で午後2時前後、宿に入ります。宿泊したのは、四日町の、代官所の役人を務めていた藤屋伝兵衛宅。「沿海日記」には、家のつくりが良いと書かれています。

翌27日、朝の6時頃に出ようとすると雨が振り出し、逗留。夜には、天体観測を行っています。残された地図を見ると、藤屋から道路を北側に跨ぎ、どうやら代官所の敷地内で、北極星を計測していたようです。

28日は朝7時頃に出立。八日町を測量し、向川原、新町と進み、大槌川を渡り、安渡に入ります。吉里吉里坂を上り、吉里吉里に。

すると「沿海日記」は新しい頁、吉里吉里村。そして次のように続きます。

前川善兵衛なるものあり
富家にて世に知るところなり
尤も旧家にて三四代已来は南部の家中となり
富は古に遙かに劣りと云
立寄て一覧す

伊能の別の「測量日記」には、前川善兵衛旧家にて、此四五代は南部の家中の由、立寄、諸国に所謂南部のキリキリなるものなり、と。

横浜は、水産庁所管の中央水産研究所。ここに前川家文書が保存されています。「当家代々の記録」に、伊能が立ち寄ったことの子細が記されています。

「どのようにして、伊能は、あれだけ精度の高い日本地図を作ることができた」のでしょう。

「なぜ、伊能は前川家を訪ねた」のでしょうか。

（大槌町教育委員会事務局生涯学習課長　佐々木健）

平成13（2001）年7月のこと。やがて姉妹都市となるフォートブラッグ市訪問のため、当時の町長、山崎三雄氏と渡米。帰途、サンフランシスコに。日本人向けの土産店「岡田屋」で、「伊能大図模写本207枚がアメリカ議会図書館で発見」という、毎日新聞の電子版に遭遇。

平成16（2004）年に、その地図が里帰り。仙台市立博物館で、伊能のことを「四千万歩の男」に著した井上ひさし先生の講演会も。

なんと会場に入るなり、最初に掲出されていたのが、大槌の部分。

フロアーに敷かれた地図全体を、歩き回りながら見られるコーナーがあり、そこで写真をパチリ。

菊坂峠があり、小鎚は木偏表記。大槌は「町」、赤い線が「道」。安渡濱は大槌村のうち、赤浜は書かれていませんが、蓬莱島も描かれています。

町方の赤い線で描かれた道、今のまま、です。そうです、現代まで、引き継がれてきたのです。

編集後記

▼今号では、9月19〜21日に行われた大槌まつりの特集記事を掲載しています。祭りに参加できなかった人にも、当日の様子を少しでも伝えることができればと記事を編集しました。表紙の写真は、小鎚神社の神輿が震災後初めて川に入るということで、1時間ほど前から場所取りをして撮影を行いました。（台野）▼宮沢賢治は絶筆となった短歌で、「方十里 稗貫のみかも稲熟れて み祭三日 そらはれわたる」と詠みました。「み祭」は昭和8年の「花巻まつり」のことですが、今年の「大槌まつり」も3日間、快晴に恵まれました。町は祭り一色に染まり、神社の宮司さんが「大槌では1年に1回の祭りのために仕事をする」と語ってくれた言葉を実感した3日間でした。（但木）

発行　岩手県上閉伊郡大槌町／編集　総合政策課
TEL 0193-42-2111　FAX 0193-42-3855
〒028-1192　岩手県上閉伊郡大槌町上町1-3／印刷　㈱東海印刷所